寄せ太鼓

北九州市立長崎街道
木屋瀬宿記念館
運営協議会 広報部会
北九州市八幡西区木屋瀬
三丁目16番26号（〒807-1261）
TEL 093-619-1149
FAX 093-617-4949

木屋瀬祇園の夏が近づく

筑前木屋瀬祇園祭

五〇〇有余年の歴史を持つ木屋瀬祇園祭りが本年も近づいてきました。

この祇園祭りを継承していくためには、いくつかの越えなければならない課題はありますが、当面する本年の祇園祭りは従来の慣習に沿ってすすめられることになります。

自治区会報でも告知しましたように、本年は七月十一、十二日の両日開催されることになり、一番山は真名子町内会が受け持ち、総取締役は一坊寺繁孝さんが、二番山は感田町町内会が受け持ち総取締役は佐々木浩人さんが務めることになります。

今後、実行委員会が立ち上げられると共に当番町としての準備がすすめられます。併行して山笠会館では手造り人形製作のため、若手陣が日夜作業に励みます。今年はどんなテーマの人形がお目見えするのでしょうか。

7月11日・12日開催。当番町は真名子・感田町

祭りは恒例によって、お汐い取りに始まり、事務所開き、そして山笠の巡行、山笠奉納、追い山や宵山笠、最後を飾る宮入り行事など多くの観客が酔いしれる場面が醸しだされます。一方、祭りを安全旦つ円滑に進めるため、取締り、掛合い、行動、交通、保護の役割を各町の有志が担い町中を駆け巡ります。

そして、祭りの間の全ての飲食や子どもたちのお世話など賄い方の女性陣の大奮闘があります。

こうした多くの人々の力が相まって祭りが成り立っていきます。

祭りの成否は住民の皆さんの物心両面にわたるご支援・ご協力にかかっています。ご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

木屋瀬宿記念館運営協議会
広報部会長　徳永興紀

第14回 木屋瀬芸術祭

木屋瀬パワーで更なる発展を

今年初めて5月2・3・4日で開催しました。5・6日が休みで参加し易いのではないか、また運営部会のボランティア仲間も後半を有効に活用できるようにとの配慮からです。

内容としては、ほぼ例年通りでしたが、最終日に行う筑前各地の盆踊り（筑前郷土芸能連絡会議）を一般の方にご覧頂けるようにしました。8団体の盆踊りが一堂に会するのは、他に例を見ない催しで、11月の宿場まつりでは、地元の皆さんは運営協力のボランティアや出店、フリーマーケットなどでゆっくり見ることができないとのご意見からです。

長崎街道筑前六宿「歴史談義」では【川筋の街道と幕末の志士たち】の講演と【街道をゆく・人物編　其の三】を実施しました。六宿のパネラーより宿場に関わりのある人物の興味深い話や、逸話で盛り上がりました。また長崎街道筑前六宿開通四〇〇年記念事業実行委員会（会長　梅本静一氏）より3カ年の活動報告と、これからの筑前六宿連携事業実行委員会の立上について説明がありました。木屋瀬宿が中心になって進めてきた、六宿の連携は開通四〇〇年を機に益々強化される事と思っています。

木屋瀬中学校吹奏楽部、北九州市マイスターの皆さん、ハンギングバスケットの講師、落語家「林家きく麿」師匠、KOQiiiほかご協力頂いた方々に感謝いたします。

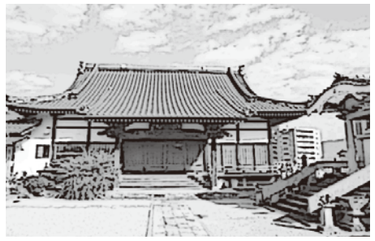
これぞ木屋瀬パワーと他地区の方々より称賛される運営部会の皆さんに感謝。感謝。

最後に地元の方々になにより楽しんで頂けるよう創意工夫を続ける所存ですので、「こやのせ座」の運営についてのご意見を多数お寄せ下さい。

運営部会長　山田　靖

わたしの昔話

光明山 長徳寺



百二十五年前の慶応二年、小倉藩の騒動の時、肥後藩の将兵達の宿本陣となった程の大寺である。光明山長徳寺はその昔光明山色照院時代、兵火にかかり古い記録は不明になっている。七百五十五年前の嘉禎元年聖光弁阿上人によって、天台宗より浄土宗鎮西派本山知恩院の末となり因って鎮西上人開基の寺になった。この光明山長徳寺は、浄土宗の祖法然上人の仏舎利を大切に奉安されている古刹である。

祖母が、他町からよく参考見学に来られていた、という山門を潜れば右方に地蔵さまが祭られている。地蔵とは、大地は万物を生ぜしめ種をまけば実を作る功力を蔵している事から地蔵の名が起きたと。地蔵さまは路傍の仏と思われる気安さがあり、人々の生活にも溶け込まれ楽しい仏さまである。お供えも笑顔で受けられてるようだ。

隣には観音堂があった。お観音さまは三十三身に姿をかえられ、人々の願いに合わせ現世利益を与えて下さる仏であり信者は多かった。長徳寺観音堂でも集まりがあって、鐘の音や御詠歌がよく聞かれていた。

山門の左には弁財天のお堂と電光庵「後に天光庵」があった。弁財天は女性神であり、女性を守り幸を与えられ、安産の守護神でもあり女性の信者が多かった。

長徳寺の弁財天には、香華を捧げる女性や掃除をされている女性を今もよく見かける。お祭りは月の明かりの下で行われるが、お堂の前の無数の灯し火の中で御接待等もされ、女や子供達のお詣りが多かった。

花祭りもあっていた。娘さん達が野の花を集め、小さなお堂に飾りつけて花御堂を作って祭り、参拝者に甘茶を配られていた。実に華やかな一日であった。

天光庵は三百五十五年前の六月十八日、雷、轟き大降雨となり電光赫々と走る一瞬大音響と共に雷が落ちた。後に玉のごとき石が残っていた。人々は天からの降神として祠を建立し奉った。その後木屋瀬に悪疫コレラが大流行した。人々は天光庵の神の石に悪疫退散の祈願をこめた。何と有難い事に悪疫は退散し、町には平和がかえって来た。それからの天光庵には諸々の願いの灯し火が燈りつづけていたと。今は庵の形跡はないが、天降神石は長徳寺に奉安されている。長徳寺にて行われていたお祭り行事は、古町木屋瀬にふさわしい形式で守られていて歴史の町と歴史の寺の息吹があり、思い出楽しくなつかしい諸々であった。

参勤交代の路用の公金を私用し、その発覚を恐れて割腹自殺した武士の墓よと、本堂横の小さな墓を祖母は指差し教えてくれた。その墓石の上で蟷螂が鎌を振り上げ私を見詰めていた。私には何かを言いたげにも見えた。

極楽のお話、地獄のお話、そして蟷螂の斧、お寺での見聞のすべてが、実にすばらしい教えであった。

【柴田豊廣遺稿集】より
本町　柴田由美子

企画展報告

第58回企画展「歴史で紐解く 硝子の世界」開催中【平成27年5月2日（土）～6月21日（土）】

「長崎街道　ひなまつり」（平成27年２月22日㈯～３月29日㈰）は、昨年開催致しました第53回企画展「長崎街道　ひなまつり」に引き続き、石坂の立場茶屋銀杏屋と木屋瀬のもやいの家、旧高崎家住宅（伊馬春部生家）、木屋瀬宿記念館の４施設連携で行いました。それぞれの施設で趣を変えて、古式の雛飾りやさげもん等の展示を致しました。期間中、１１２８名とたくさんの方に来館していただきました。

現在、第58回企画展「歴史で紐解く　硝子の世界」（平成27年5月2日㈯～6月21日㈯）を開催しております。江戸時代に日本に普及した硝子を題材として、長崎から伝わったとされるステンドグラスや直方谷尾美術館の収蔵品等を展示しています。この機会にぜひお越し下さい。

夏休みイベントについて

昨年は残念ながら台風の影響で中止となりました、毎年恒例のたなばたまつりを８月８日㈯に開催する予定です。今回も楽しい催し物を多数予定しておりますので、ぜひお越し下さい！

木屋瀬宿の川艜文書
④ 遠賀川の川艜と船頭

木屋瀬みちの郷土史料保存会　松尾　良美

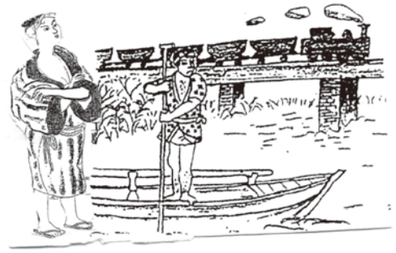
昭和三十年代に筑豊電鉄開通をひかえて、〝めざせ観光地木屋瀬〟との表題で、昔話「川艜船頭座談会」の話題にあがった木屋瀬出身の船頭あがりの相撲取りの九州山と旅籠屋「筑後屋」石橋応助の鴨緑江渡河一番渡しを前号の記事とした。その時の座談会に、「その頃は川筋の親分は、若松の吉田磯吉、その兄弟分である木屋瀬の岡部亭蔵……木屋瀬の船頭はみンな強ござしたバイ。……」と、以上の出席者等の話題が記事として出ている。

早速、図書館で戦時中（昭和十三年頃）に支那事変に応召し、奇しくも人隊の前日に書き上げた小説「糞尿譚」で、第六回芥川賞を受賞した火野葦平の遠賀川文学について記述した書籍に、川艜船頭の吉田磯吉と岡部亭蔵に川筋女侠で勇名を馳せた〝どてら婆さん〟こと島村ギン等の一連の交友の繋がりがわかったのである。

時代は明治二十年代の中頃まで遡る。その頃の遠賀川に白帆を満々と張った川艜は、積荷は殆ど石炭であった。石炭を積み込む場所を〝ツンバ〟とか〝津出し〟とも呼んでおり、遠賀川の上流である英彦川は赤池、岡森、下境あたりから、嘉麻川の方は飯塚、鯰田等から積み出していた。木屋瀬のツンバは笹尾川を上った真名子橋と四郎丸橋の間で、そこまで金剛や笹田の炭鉱から馬車で石炭を運んでいた。

朝、木屋瀬を出て、一日と十五日の大潮に乗ると石炭を積んだ川艜は、午後には若松に着いたが、船がツカえると若松迄は何日も費やす事もあったという。追抜きは絶対に出来ず、寿命の唐戸から中間を通り、吉田の河守迄下ると、橋の上から長い竿の先に籠（テボ）を付けて川艜の上に差し下ろした。テボには通船料一金二銭を入れて、更に若松に向かう有様であった。

時代は、こうした悠長な石炭の運搬を認める事が出来ず、年々石炭の需要が増大して、一刻でも早く石炭の輸送が必要となり、川艜に代わる新時代の最先端を走る文明の利器〝岡蒸気〟なる鉄道の敷設が行われようとする明治二十四・五年代となった。



川艜船頭吉田磯吉は、年令二十四才で逞しい体格の精悍で身体をゆすって高笑いをする貫禄があり、此の頃の川艜船頭達は北九州地方での花形で、伊藤伝右衛門、花田準造達も後に顔役として名をなした親分衆である。

岡部亭蔵（禎蔵）は長津村（現在の中間市）出身で、身長五尺七寸（一米七〇糎）体重十八貫（七〇キロ）の偉駆に惚々と見上げる程で、川艜船頭仲間で吉田磯吉とも共に頼もしいというより、川筋の気っぷを生まれながらにして身につけた川筋男である。

通称〝どてら婆さん〟こと島村ギンは、山口県吉敷郡木園村が出身地で農家に嫁ぎ、七年後には婚家を出て若松に住む伯父を頼って、港と停泊中の本船との間を、乗客や貨物を運ぶ船〝ハシケ（艀）〟の船頭をする伝手を求めてきた次第である。

島村ギンが着ていた〝どてら〟とは、普通の着物よりやや長く大きく仕立て、綿を入れた広袖の着物であって、彼女は半纏の上にどてらを羽織り、黒帯で締めた扮装で、頭には鼠色の鳥打帽という異様な姿であった。

ギンは三十才になったばかりの女盛りであったが、季節外れの時期にどてらを着こんだ姿が、如何にも〝婆さん〟のように見えたので〝どてら婆さん〟とあざながつけられた。

以上の三人は、川艜で遠賀川を石炭を運搬する船頭衆の気っぷのよさと世話好きで、肝胆相照らす仲となっていた。

史料館の二階に展示してある明治二十二年当時の木屋瀬村職業・屋号一覧にあるように、稼業を船頭とした戸数が二十一と記されているように、この頃より明治二十四・五年は石炭を運ぶ手段が、川艜から文明開花の岡蒸気の時代に代わろうとしていたのである。

九州でも筑豊線が起工され、筑豊興業鉄道は筑豊炭田から石炭を積み出す使命を帯びて、直方から若松迄に線路が敷設された。

汽車は船頭達の仇敵であり、何かと因縁をつけては、線路敷設人夫に喧嘩ををふっかけたが、鉄道開通で遠賀川に白帆をあげていた川艜は激減して、船頭稼業が出来なくなった。

吉田磯吉・岡部禎蔵・どてら婆さん達は、誰よりも早く船頭に見切りをつけて、港湾・炭鉱・土木工事等に新たなる事業の踏み出をしていた。

シリーズ 筑前木屋瀬宿 神仏めぐり
第三十四回 浄土宗 長徳寺
～第三十二世 定誉英信上人を訪ねて～

長崎街道木屋瀬宿記念館こやのせ座の斜め前に、浄土宗として、780年前に開山した古刹の長徳寺を訪問して、樋口英信上人（方丈さん）にお尋ねしました。

昨今の世相の話から、心が痛む事件が多いことに話が及ぶと、宗教と教育の重要性を熱く語られました。「私は、昭和三十九年から直方学園、折尾女子商業高校の教師として十三年間、若い人の教育に携わってきました」と語られました。「直方学園は、2003年に廃校になりましたが、野球部の担当教師として八年間指導育成を行い、1969年には、夏の高校野球甲子園大会の福岡県決勝大会の出場を果たしました。野球を通しての人間形成を心がけ指導しました」と語られました。当時の学園から二人のプロ野球選手が育っています。

さて、方丈さんは、叙勲を受賞されていると、壇信徒の方からお聞きしましたがとお尋ねしますと、「平成二十二年に『瑞宝双光章』受賞しました」と語られました。「この賞は永年保護司として、社会に貢献したことに対しての受章で、皇居豊明殿で天皇陛下より御言葉を賜りました」と述べられました。

お寺の法務、高校の教師、浄土宗の布教師、又保護司として、多彩な活動をされている事に驚きました。年齢とご出身をお尋ねしますと、「昭和九年生まれで、今年で八十歳になります。生まれは、長崎県の野母崎町で、実家は、浄土宗のお寺、蔵徳寺で四人兄弟です。長崎の海星高校から日本大学に入学し、その後大正大学に転校し卒業しました。卒業後は、長崎県の社会教育主事として勤務していましたが、縁あって木屋瀬の長徳寺に、昭和三十八年に入寺しました」と話されました。

樋口英信上人

「瑞寶雙光章」表彰状

「昭和五十八年頃から、荒れ果てていた境内墓地の整備にかかり、現在は公園のような綺麗な墓地に生まれ変わりました。又、本堂の改修と庫裏の新築を手がけ平成二年に完成しました。現在の本堂は、天保十一年（1840）に建立され、その後幾度か改修され、今回（平成二年）の大改修となりました。本堂の天井には、建立時の棟梁和田惣平の名前が残っています。本堂は、江戸期の木造建築物として文化財的価値を持つ建物です」と述べられました。

方丈さんは、現在浄土宗の福岡教区長、大本山善導寺の議長、総本山知恩院の長老待遇で、法然上人800回忌法要の脇導師を勤められ、浄土宗の重鎮で宗務に於いても、大変重要な役職をなされています。

合掌

優きことの
踏みしめ歩く落花かな
虹の橋渡りて浄土覗きけり

（本町　野口靖彦）

記念館運営協議会 第15回総会開催

さる4月25日（土）19時から、こやのせ座で木屋瀬宿記念館運営協議会の総会が開催され、平成26年度事業報告及び決算、平成27年度事業計画及び予算が承認され、さらに木屋瀬宿記念館運営協議会役員改選で、次の新体制が選出されました。

新役員は、理事長に商工連盟の山田靖さん、副理事長にみちの郷土史料保存会の和田亀男さん、事務局長に宿場木屋瀬街づくりの会の野口靖彦さん、広報部会長に木屋瀬老人クラブ連合会の徳永興紀さん、みちの郷土史料館運営部会長に和田亀男さん、こやのせ座運営部会長に山田靖さん、監事にまちなみあんないの会の近藤浩さんとみちの郷土史料保存会の高野義仁さんがそれぞれ選任されました。

本年度も地区の皆様のご支援・ご協力をよろしくお願い致します。